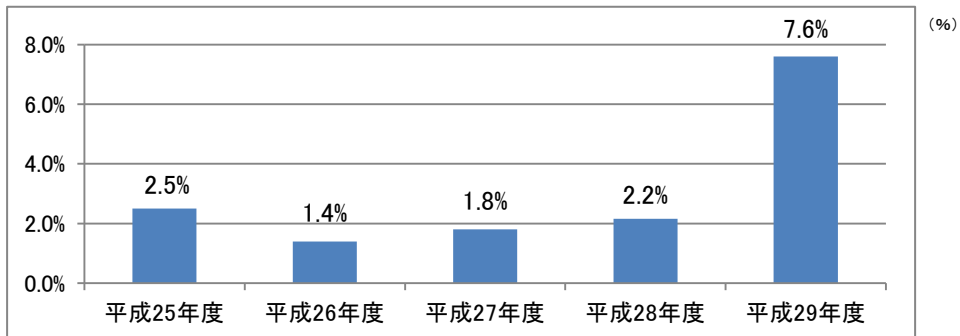


25 CPC(臨床病理検討会)の検討症例率

○項目の解説

CPC(臨床病理検討会)とは、臨床医・病理医などが、治療中に院内で死亡し病理解剖が行われた症例について診断や治療の妥当性を検証する症例検討会のことです。診療行為を見直すことで得られた知見を、今後の治療に役立てるために行われます。医学生・研修生の教育にも寄与するもので、その取り組みの状況を表現する指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

平成25～28年度のCPCは、年間4回(1症例/回)行われていましたが、平成29年2月より当大学では、研修医教育の一環として、年間8～9回(2例/回)のCPCを行っており、年間16～18症例の病理解剖をCPCで検討しております。平成29年度のCPCでの検討症例率が過去4年の3倍ほどに増加しているのは、死亡患者数がほとんど変化していないことを考慮すると、この新CPC方式によるものと考えられます。病理解剖、そのCPCでの検討は、院内で行われた医療行為の究極の質保証の手段です。高度な医療を提供する大学病院では、院内死亡例に関しては、病理解剖はなるべく多く行われるべきであり、解剖が行われたものは全例CPCで検討されるのが理想です。

○定義

当該年度1年間のCPC(臨床病理検討会)のCPC件数を死亡患者数で除した割合(%)です。

自院での死亡退院を対象とします。ただし、学外で病理解剖が行われた症例について、病理解剖を担当した医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。

○算式

分子:CPC件数

分母:死亡患者数